

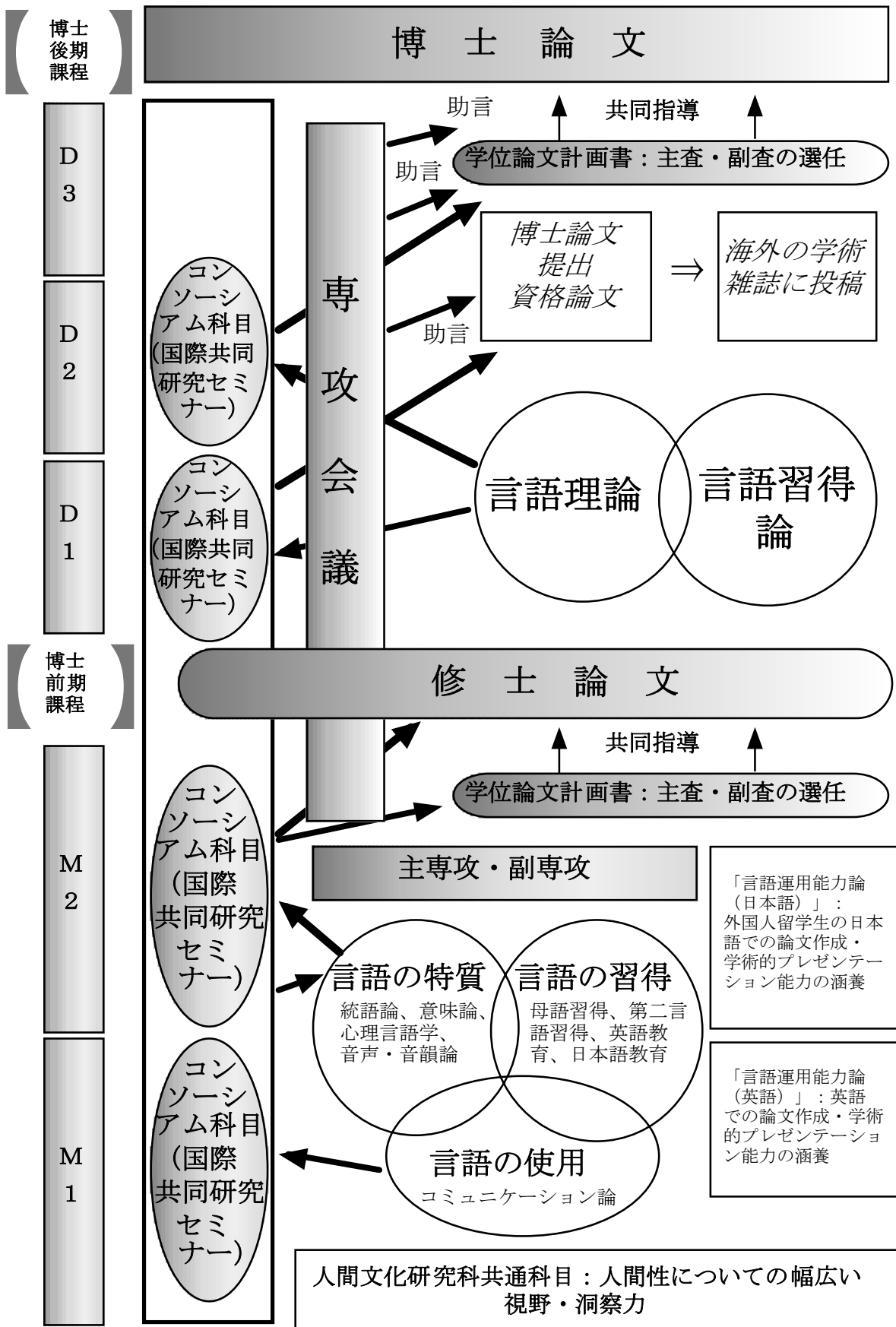
平成18年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 教育プログラム及び審査結果の概要

◇「1.申請分野(系)」～「6.履修プロセスの概念図」:大学からの計画調書(平成18年4月現在)を抜粋

機 関 名	南山大学	整理番号	d015
1. 申請分野(系)	人社系		
2. 教育プログラムの名称	言語科学国際共同研究のカリキュラム化 (コンソーシアム協定に基づく若手研究者の育成)		
3. 関連研究分野(分科) (細目・キーワード)	主なものを左から順番に記入(3つ以内) 言語学		
	主なものを左から順番に記入(5つ以内) (言語学、統語論、心理言語学、日本語教育、対照言語研究)		
4. 研究科・専攻名 及び研究科長名 ([]書きで課程区分を記入、 複数の専攻で申請する場合は、 全ての研究科・専攻を記入)	(主たる研究科・専攻名) 人間文化研究科・言語科学専攻 [博士前期課程] 人間文化研究科・言語科学専攻 [博士後期課程]		研究科長(取組代表者)の氏名 齋藤 衛
	(その他関連する研究科・専攻名) なし		
5. 本事業の全体像(わかりやすく、具体的に記入してください。)			
5-(1) 本事業の大学全体としての位置付け(教育研究活動の充実を図るための支援・措置について)			
<p>本学は、キリスト教的世界観を建学の理念として、「人間の尊厳のために」を教育のモットーに掲げ、1949年に発足した。当初から国際性と国際的貢献を教育・研究活動の中心に据え、2004年4月に大学院研究科を改組し、人間文化研究科を設置した際にも、人間性の本質の追究と国際的に活躍しうる人材の育成をその主要な目的とした。今回の事業を行う言語科学専攻は、本学言語学研究センターの国際的・先端的研究活動に立脚しつつ、日本語研究を基礎として人間言語の普遍性を解明することをめざし、人間文化研究科の目的の実現に努めている。</p> <p>今回の事業は、本学の設立以来、重要な位置を占めてきた言語科学の分野において、国際的共同研究プロジェクトに貢献しうる研究者の育成を図るものであり、本学が言語科学領域における教育・研究の世界的拠点となる体制を構築する上でも重要な位置を占めるものである。本学の教育・研究の理念を具現化するものであることから、当該研究科・専攻だけでなく、大学全体のプロジェクトとして事業を推進する。</p>			

機 関 名	南山大学	整理番号	d015
<p>5-(2) これまでの教育研究活動の状況(これまでの改善点と、今後の課題について)</p> <p>人間文化研究科言語科学専攻は、言語研究に基づいた人間性の本質の追究と、国際的に活躍しうる高度専門職業人、研究者の育成をめざして、旧来の外国語学研究科英語教育専攻・日本語教育専攻を改組する形で2004年4月に開設された。国際的に通用する「言語の専門家」を養成するために、欧米の大学で学位を取得している研究者を中心に教員組織を構成し、専門的研究に取り組む研究科目、研究指導科目に加えて、海外の言語学大学院で通常必修とされる科目群を配置している。また、外国語学研究科の伝統を引き継ぎ、一部科目の使用言語を英語とし、留学生や外国大学の卒業生を対象とした書類審査のみによる「国外在住者入学審査」を実施して、課程の国際化に取り組んでいる。さらに、実践的訓練を施すために、本学言語学研究センターを中心として教員が展開する国際共同研究プロジェクトにできる限り学生を参加させるようにしている。</p> <p>同時に、設置以来2年間の教育を通して、学生がより積極的に、また、より高度なレベルで国際共同研究に貢献できるようになるためには、教育課程のさらなる充実が必要であることが明らかになっている。今回の事業は、このニーズに応えようとするものである。</p>			
<p>5-(3) 魅力ある大学院教育への取組・計画(5-(2)を踏まえた大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)のための具体的な教育取組、発展的展開のための計画、及びこの取組によって改善が期待される点について)</p> <p>上述したように、本専攻は、国際的に活躍しうる高度専門職業人、研究者の育成をめざすものであるが、国際共同研究プロジェクトに積極的に貢献しうる力、さらには、そのようなプロジェクトを自ら企画・遂行する力を学生に身に付けさせるためには、より高度かつ実践的な教育プログラムを実現する必要がある。本専攻の修士(博士前期)課程が3年目を迎え、博士後期課程が設立される2006年4月を機に、(i) 先端的研究と研究者養成において指導的な役割を担っている海外7大学の言語学・日本語教育プログラムとコンソーシアム協定を締結し、(ii) 協定校の教員と若手研究者が参加して、国際共同研究のインターンシッパ的訓練を行うコンソーシアム科目を専門科目として開講し、さらに、(iii) 学生の研究指導にも協定校の教員が協力してあたるシステムを構築することによって、国際的に活躍しうる人材育成のための教育体制を強化する。</p>			

6. 履修プロセスの概念図(履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。)



<審査結果の概要及び採択理由>

「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化(教育の課程の組織的な展開の強化)を推進することを目的としています。

本事業の趣旨に照らし、

①大学院教育の実質化のための具体的な教育取組の方策が確立又は今後展開されることが期待できるものとなっているか

②意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画となっているか

の2つの視点に基づき審査を行った結果、当該教育プログラムに係る所見は、大学院教育の実質化のための各項目の方策が優れており、十分期待できるとともに、教育プログラムが事業の趣旨に適合しており、その実現性、一定の成果と今後の展開の面も期待できると判断され、採択となりました。

なお、特に優れた点、改善を要する点等については、以下の点があげられます。

[特に優れた点、改善を要する点等]

- ・ヨーロッパ言語と典型的に異なる日本語と他言語の比較を通じて、一般言語理論の発展に寄与し、その成果を国際共同研究の中でさらに発展させることのできる若手研究者の養成を急務と捉える問題意識と目的意識が明確化されている。
- ・外国の協定校とのコンソーシアム科目(国際共同研究セミナー)を設定し、国際的要請に応えうる研究者の育成を目指す手法は斬新・独創的な取組である。
- ・研究科共通科目、基礎科目、概論科目、研究科目、研究指導科目を中心として教育課程が工夫されている。
- ・ただし、FD(教育内容・方法等の組織的研究・研修)の実施体制や実施内容・方法に関して、さらなる工夫が必要である。